

柳葉 沈七兩一分 丁子二兩二分イ一分 甲香二兩一分イ一分 藿香一分四朱 白檀一分
一朱 六 甘松一分 熟鬱金二分

〔倭名類聚抄十二〕甲香 南州異物志云、甲香俗云合螺屬也、可合衆香燒之、皆使益芳、獨燒則臭、

〔徒然草上〕甲香はほら貝のやうなるがちいさくて、口のほどのほそながにして出たる貝のふた
なり、武藏國金澤といふうらにありしを、所の者は、へなたりと申侍るとぞいひし、

〔實隆公記〕文明十九年二月二十七日戊辰、自龍翔院公藤原薰物三具早梅、梅、被送之、祝着々々、

〔倭名類聚抄十二〕百和香。 神仙傳云、淮南王張錦繡之帳、燻百和之香、燻燒也、音繁、

〔古今和歌集十〕百和香 花ごとにあかずちらし、風なればいくそばくわがうしとかは思
よみ人ゑらす

〔後拾遺和歌集十〕少納言なくなりてあはれなる事などなげきつゝ、をきたりける百和香をち

いさきこにいて、せうと棟政朝臣につかはしける、 選子内親王

のりの爲つみける花をかすくゝに今はこのよのかたみとぞ思ふ

〔經信卿母集〕百和香あつめてうたよまするに、とのつちはりのはなをくはへよといふ、
いかでかはゆきておるべきいろくゝにむらごににはふつちはりの花

〔類聚雜要抄四〕蘇合香 味甘温無毒、主擊惡氣、散鬼精、物忌、蠱毒、通神明、久服輕身、延年、是師
味甘平温無毒、或辛苦、主腰痛、勞瘵、瘋瘦、神養、氣、久服、物、輕、甘松香 如前、 沈香 同前、 白檀香 薰衣香

延年、一名鹿角膠、羅樹汁云々、又楓木脂也、眞非、作物、歟、 麝香 治万病、不近鬼、 薰陸香 如前、 熟鬱金 味辛苦寒、無毒、主惡々淋、其形似薑、黃也、生西戎、又馬

麝香 神五香、湯入之、 薑糖 其樹似橘、天煎、枝葉爲香、似糖而黑、去、 藿香 療風水、毒腫、治霍亂、心痛、利小便、 香附子 諸

毛髮者也、凡探得後陰干於、 石臼木杵搗之、勿令鏗用也、

已上香、薰衣香用之、略中